

バティスタ・アニーゼ「海図帳」16世紀（ファクシミリ版）

Atlante Nautico / Battista Agnese

Roma : Istituto della Enciclopedia Italiana fondata da Giovanni Treccani , 2008

（神奈川県立図書館 所蔵）

CONTENTS

●特集 古地図の魅力	2頁
●神奈川県立図書館リトアニアデイズ開催	
平塚図書館特設コーナー「リトアニアにふれよう」展示 西ロシア図 資料紹介	4頁
●神奈川県立図書館セミナー 山口茂、山口文庫、J-B. Say -生き続ける知の遺産- 開催報告	5頁
●2017年 横浜図書館 展示報告	6頁
●図書館の所蔵資料紹介 ルターと印刷	7頁
●図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記	8頁

便利さではグーグルマップにかないませんが…

古地図の魅力

地図：地球表面の全部または一部の状態を、記号や文字を用い、縮小して、一般には平面上に描き表したものの。地図は複雑に分布する土地の情報を伝える優れた手段であり、各種の調査、計画、行政、教育、レクリエーションなど、われわれの活動や日常生活に不可欠のものとなっている。 JapanKnowledge より

■アブラハム・オルテリウス「世界の舞台」1570年 オランダ

16世紀アントワープの地図装飾師、アブラハム・オルテリウス（Abraham Ortelius, 1527-1598）によって制作された本書「世界の舞台」は、一律にデザインされた世界の地図と新たな地理的知識・情報を含んだ説明文が一冊に集められ、活版印刷術によって印刷された地図帳として、世界最初の近代的な地図といわれる。この地図帳が「世界の舞台（THEATRUM ORBIS TERRARUM）」と名付けられたのは、地球そのものが人類の活動のための舞台を提供しているという意味を示している。



Theatrvm orbis terrarvm / Abraham Ortelius – Kyoto : Rinsen Book Co. , 1991
請求記号：A290.38-70（横浜 地下書庫下層大型）

■バティスタ・アニューゼ「海図帳」16世紀 イタリア



12世紀後半から船乗り達に羅針盤が使われるようになると、多数の方位線が書かれた海図が発達した。このような“ポルトラーノ海図”と呼ばれる航海のための地図がヨーロッパに現れたのは1300年頃で“ポルトラーノ”という呼び名は、イタリア語の「航海案内書」に由来する。当時、海図は貴重な品で高価な豪華本も作られたが、ヴェネツィアの地図制作者バティスタ・アニューゼの工房では、この「海図帳」のように小型で、豪華版よりは多少廉価な富裕層向け海図を制作した。

Atlante Nautico / Battista Agnese [facsimile ed.] – Roma : Istituto della Enciclopedia Italiana fondata da Giovanni Treccani , 2008
請求記号：A550-48（横浜 貴重書庫）

■マテオ・リッチ「^{こんよ}坤輿万国全図」1602年 中国

イエズス会士マテオ・リッチ（Matteo Ricci, 1552-1610）は、中国におけるキリスト教伝道師として知られている。1601年に明の万暦帝によって北京に招かれ、明の数学者、地理学者で後にキリスト教徒に改宗した李之藻（りしそう）の助けを借りて坤輿万国全図の制作、刊行を行った。このような高度な地図をつくることでキリスト教の優位性を示しながら、中国を世界の中心部におく配慮なども見せている。この地図は日本や朝鮮へももたらされた。



坤輿万国全図 / 利瑪竇 – 京都：臨川書店，1996
請求記号：B290.38-114（横浜 地下書庫上層）

■伊能 忠敬「大日本沿海輿地全図」1821年 日本

伊能忠敬(1745-1818)は、江戸時代中期の地理学者、測量家である。50歳を過ぎて家業の酒造業を引退後、高橋至時に師事し、かねてから興味があった暦学、天文学を本格的に学んだ。蝦夷地測量の結果が認められ幕府の事業として全国の測量を実施し、1800年の第一次から1816年第十次まで各地を測量し、日本で最初の実測測量による地図を作成した。「伊能図」と称されるこの地図をもとに明治以降多くの地図が刊行され、日本の地理学上きわめて大きな貢献をした。

伊能図大全 / 渡辺一郎監修 - 東京: 河出書房新社, 2013
請求記号: B290.38-222 (横浜 2F参考)
291.038-15 (平塚 第2閲覧A)



■ヘレフォードのマッパ・ムンディ 1300年頃 イギリス



中世ヨーロッパで作られた「マッパ・ムンディ(Mappamundi)」とは、ラテン語の布を意味するmappaと世界を意味するmundusから成る世界図を指す言葉である。しかし現実の地理的情報を正確に反映させた地図ではなく、そこに表されているのは宗教的世界観に基づく現世である。この「ヘレフォード図」と呼ばれるマッパ・ムンディは、現存する中世の地図の中で最大のもの(1.58×1.33m)である。地図の中心にエルサレムがあり、Oで囲まれた世界の上にキリスト、その下にエデンの園が描かれており、向かって右側のアフリカには奇怪な生き物が描かれている。この大地図はヘレフォード大聖堂のために「ハルディングガムのリチャード」という人物が聖職者集団を率いて制作したと言われている。

Mappa mundi: the Hereford world map London:

Folio Society, c2010

請求記号: A290.38-110 (横浜 貴重書庫)

■一玉斎「神奈川港御貿易場明細大絵図」(横浜浮世絵) 1859年 日本

開港期の横浜の移りゆく風景や、外国人風俗などを描いた「横浜浮世絵」は当時非常に人気があった。この開港期の横浜を描いた地図は、正確な地図というよりは「絵」であるが、現在の関内、みなとみらい、山手あたりの当時の姿がわかる。「異人屋敷」などと書かれた地域も見える。作者は歌川貞秀(1807-1878?)。五雲亭などの名でも活躍した横浜浮世絵の第一人者である。

神奈川港御貿易場御開地御役屋敷並町々寺院社地ニ至ル
迄明細大絵図にあらわす / 一玉斎貞秀 1859 51×74cm

請求記号: B092.2-134 (横浜 貴重書庫)



神奈川大学 リトアニアデイズ 開催 平塚図書館特設コーナー「リトアニアにふれよう」展示

「西ロシア図」 J.&F. Tallis (c.1851)

神奈川大学図書館では、リトアニアに関する貴重資料「西ロシア図」を所蔵しています。「神奈川大学 リトアニアデイズ」開催に伴い平塚図書館に特設コーナーを設置するにあたって、本資料も展示を行いました。

「西ロシア図(Russia in Europe)」は、1851年前後に19世紀英国の有名な製図家であるタリス (John Tallis,1817-1876)によって製作されたものです。タリスは生涯1つの世界地図帳しか出版しませんでした、それでも世界で最も有名な製図家の一人として知られています。

タリスの世界地図帳は、1851年にロンドン万博を記念するために出版された“Illustrated World Atlas (挿絵入り地図帳)”ですが、本学で所蔵している資料は地図帳の中の1ページではなく、1849年-1853年の間にタリスが兄弟のフレデリックとともに、製作した地図を安価で分割販売(約70分割)していた時代の1枚ではないかと推測されます。

地図製作には、有名な彫刻家のラブキン (John Rapkin, 1815-1876)も携わっており、美しい装飾を施したことが地図の美的評価にもつながっています。タリスの世界地図は、精巧で魅力的な装飾が施された世界最後の地図ではないかとされています。

地図に描かれているのは、この地図が製作された当時のロシア帝国です。県境が彩色された線で描かれているのが特徴です。当時、リトアニアはロシア帝国の一部であったため、現在のリトアニアの首都ヴィリニウスは、ロシア帝国の都市ヴェリナの一部として描かれています。この地図からは、1991年にリトアニアが独立を果たす以前の国の姿を見ることができます。(平塚図書館課 永沼 知之)



特設コーナー「リトアニアにふれよう」、「西ロシア図」展示風景



平塚図書館 特設コーナーでは、リトアニア・バルト三国の文化や歴史、オリンピック・パラリンピックに関する資料を中心に集めました。リトアニアが旧ソ連の支配下にあった時代、リトアニア領事館領事代理としてナチスドイツから逃れてきたユダヤ系難民に対し、外務省の命令に反して「命のビザ」を発行したことで知られる外交官「杉原千畝」の関連資料も展示しました。

「西ロシア図」展示の際には、地図の説明とあわせてリトアニアの国旗や国章、年表など、国の成り立ちが分かる資料の展示も行いました。特設コーナーの見学に来館されたリトアニア関係者の皆様は、本学教員からの説明に熱心に耳を傾け、リトアニアの場所を指さしながら興味深そうにお話をされていました。



設置場所：平塚図書館カウンター前
設置期間：10月10日(火)ー11月10日(金)

山口茂、山口文庫、J.-B. Say - 生き続ける知の遺産 - 開催報告

山口茂先生は1929年から1941年まで本学非常勤講師として教鞭を取られ、1954年に一橋大学を退任された後、神奈川大学教授に就任、1969年まで15年間本学の教授として教育に尽力されました。本学図書館は1966年、山口先生から蔵書の寄贈を受け、17、18世紀イギリス、フランスの経済学に関する貴重書を含む2,394冊(洋書1,316冊、和書1,078冊)の書籍は現在「山口文庫」として大切に保管されています。このたび「山口文庫」の中から19世紀の経済学者ジャン=バティスト・セー(Jean-Baptiste Say, 1767-1832)の孫イポリット・コントの蔵書印のある書籍およびセーの自筆書き込みが見つかり、『セー全集』編集者の一人、リュミエール・リヨン第2大学名誉教授ジャン=ピエール・ポティエ先生をお招きしてセミナーを開催しました。

報告

1. ジャン=ピエール・ポティエ(リュミエール・リヨン 第2大学名誉教授)
「ジャン=バティスト・セーの蔵書への注記 ー山口文庫セー旧蔵書の書き込みー」
2. 喜多見 洋(大阪産業大学経済学部教授)
「イポリット・コントの蔵書印をめぐって」
3. 高橋 則雄(元神奈川大学図書館事務部長)
「山口文庫と図書館員 ー図書館員からみた山口文庫ー」

司会：出雲 雅志(神奈川大学経済学部教授)

通訳：竹永 進(大東文化大学経済学部教授)

ポティエ教授からはセーの生涯と著作の概要、その蔵書がどのような経緯で山口文庫に含まれるようになったのかをお話いただき、セーが所蔵していた書籍とその書込み、そこから読み取ることができるセーの思想などについて詳しく解説していただきました。続けて喜多見教授からは、イポリット・コントの蔵書印から見えてくるジュネーヴの思想家デュモンとセーの交友を通じた、(セーの娘婿)シャルル・コントとデュモンの親交について、またそこから新たに見えてきたセーのイメージについて解説していただきました。最後に高橋氏から山口文庫に関する分類上の分析と、そのコレクションから見えてくる山口先生の研究動向や、山口文庫がその後の本学図書館の蔵書構成に与えた影響などを解説していただきました。講演終了後は山口ゼミナールOBの方々による先生との思い出や山口文庫をめぐるエピソード、ご親族から提供をいただいた山口先生の留学時代のお写真などが披露され、様々な充実した内容で和やかな雰囲気うちに終了しました。



於) 神奈川大学図書館 B1F 視聴覚小ホール 2017年11月16日(木) 14:30-17:20

2017年 横浜図書館 展示報告

横浜図書館の玄関を入り、階段を上った所にある1F展示コーナーでは、毎回一定のテーマのもとに数世紀前の貴重資料や普段は目にすることのないめずらしい資料を紹介しています。2017年に行った図書館展示を振り返ります。

Corpus ー身体ー

(会期：2016年12月21日ー2017年3月11日)

我々にとって最も重要であると同時に、いまだ全てを解明できない謎に満ちた存在である身体。“近代解剖学の父”と呼ばれる16世紀の解剖学者ヴェサリウスの『ファブリカ』の図版や文化圏で異なる身体への価値観や表現をテーマに所蔵資料を展示しました。



誰もが知ってる名作たちー図書館所蔵資料でみる“超”有名作品ー

(会期：2017年4月3日ー5月31日)

図書館は書籍、映像資料、録音資料など様々な名作に触れる事が出来る場所です。何十年、何百年に渡って影響力を与え続ける世界的名作をテーマに、絵画、文学、音楽の所蔵資料や『リヴァイアサン』『法の精神』などの貴重資料を展示しました。



ドイツの文化と出版史

(会期：2017年6月2日ー7月2日)

「インターナショナルウィーク 2017ドイツ」開催に伴い、コッタ、S.フィッシャーといったドイツの精神文化と深い関わりを持った出版社の書籍や、活版印刷初期に印刷された零葉、ゲーテやケルン大聖堂の魅力を伝える資料を紹介しました。



宇宙への進出 (会期：2017年7月8日ー10月15日)

人類が宇宙へ拡大する上で考えなければならない「宇宙資源」「生活」「宇宙への進出方法」などについて、宇宙関係の書籍や実際に宇宙で食べられている宇宙食を紹介しました。

奏でる人びと (会期：2017年10月19日ー12月中旬)

秋の図書館フェアで行われるLPレコード鑑賞会と関連して、音楽、特に弦楽器を演奏する人々をテーマに、LPジャケットや20世紀絵画、写真集、キリスト教関連資料など様々な場面の「奏でる人びと」を展示しました。



※図書館では2018年も様々な展示を予定しています。詳細はポスター、HPなどをご覧ください。

ルターと印刷



今から500年前の1517年10月31日。「贖宥の効力を明らかにするための討論」の討論会通知がヴィッテンベルク大学の掲示版として使われている城の教会の扉に貼りだされた。学者同士の討論会は研究や学位取得、学生の訓練のために行われており、箇条書きの論点が書かれた「論題」を大学の掲示版に貼りだすのは特別な事ではなかった。また、庶民には読めないラテン語で書かれたことから、限られた人に向けた学術的討論会であることは明らかだった。しかし、討論会を呼びかけた人物の意図しないところでこの「論題」は広範囲に流布し“14日間のうちに早くも全キリスト教界を一巡した”と言われる。

この討論会通知は「九十五カ条の論題」と言われ、呼びかけ人はマルティン・ルター、宗教改革運動の始まりとされる出来事である。教会内部の腐敗に対する改革はそれ以前にも行われていたが、この出来事が決定的な始まりとなり、以降、諸侯達とカトリック教会との関係、ハブスブルク帝国とヨーロッパの状況などの背景と複雑に絡み合い、民衆を巻き込み、長期にわたりカトリックとプロテスタントの戦いとしてヨーロッパ各地で続くことになる。

当時、ルターは「論題」が流布されたことに関して「私の期待に反して再三再四印刷されたり、翻訳されたりしている」と困惑している。元々限られた人々への学術的討論会の告知を“天使の飛脚”という表現を生み出す程速く、広範囲に流布することを可能にしたのが、当時の人文学者達のネットワークと1450年頃に発明された活版印刷術である。「論題」が直ちに広まったライプツィヒ、バーゼル、ニュルンベルクは当時印刷業と人文主義運動の中心地だった。ドイツ語にも翻訳され、学者層だけでなく民衆にもなじみのある贖宥状というテーマに対する反響は絶大だった。

ルターの思想の中心にあるのは信仰の拠り所を聖書に求めるという点であり、そこでは「読む」という行為が重要になる。ルターはラテン語や多くの方言に分かれていたドイツ語の聖書をザクセン官庁語で統一し、民衆に分かりやすい表現で書かれたドイツ語訳聖書の作成に情熱を傾けた。この新約聖書は1522年に発行されると3000部という多くの部数が売れ、すぐに同じ数を増刷したといわれる。印刷術の威力を知ったルターは精力的に著作活動を行っていく。ドイツで出版された書籍は1510年から1517年までは1710種、そのうち宗教書の年平均出版数は84種であった。ところが宗教改革開始以降の1518年から1520年の間に出版された書籍の1680種のうち、宗教書は四倍以上の年平均345種に増え、増加した数のうちの54.7%がルターの著書であったという。一方、書籍を購入できない一般民衆にその理念を普及する役割を果たしたのは安価で手軽なパンフレットや小冊子、一枚刷りのビラである。民衆向けにドイツ語で書かれた簡単な印刷物は素早く大量に印刷され、カトリック側との宣伝合戦が盛んに行われた。このような印刷物には活版の文字に本文の内容理解を助ける木版画と一緒に刷られ、字の読めない者は木版画を見ながら朗読を聞き、内容を理解した。宗教改革の思想は活版印刷によって大量に生産された出版物を通して、知識層にも庶民にも広がったのである。

本学図書館はルターによる1540年発行の印刷物“*An die Pfarrherrn wider den Wucher zu predigen*”（高利貸しに反対すべく僧侶たちに与う）を所蔵している。この論文はマルクスが『資本論』の中で引用を行っていることでも知られる。質素な作りではあるが、パンフレットというには厚みのある94ページ分、14cm×18cmの小冊子である。表紙に銅版画が載り、頁には数か所に書き込みが残る。2017年の日本で今、自分が手に触れているのはおよそ500年近く前、ルターの思想を知ろうとした人々が手に取って読んだものである。書物に「生きた歴史」を感じるのはこんな時だ。

An die Pfarrherrn wider den Wucher zu predigen: Vermanung /D. Martini Luther -- Wittemberg : Joseph Klug, 1540
請求記号 : A198-458 (貴重資料)
(資料サービス課 荏原直子)

図書館からののお知らせ

横浜・平塚共通

■冬季長期貸出について

対象……学部生
貸出受付期間……2017年12月4日(月)～12月26日(火)
返却期限日……2018年1月12日(金)
冊数……10冊

■春季長期貸出について

対象……学部生(卒年次生)
貸出受付期間……2018年1月23日(火)～3月3日(土)
返却期限日……2018年3月19日(月)
冊数……10冊

対象……学部生(在校生)
貸出受付期間……2018年1月23日(火)～3月24日(土)
返却期限日……2018年4月9日(月)
冊数……10冊

■年末年始の休館日について

期間……2017年12月27日(水)～2018年1月5日(金)

■一般公開休止について

後期試験実施に伴い、下記期間中の一般公開を休止いたします。

期間……2018年1月6日(土)～1月30日(火)

平 塚

■休日開館の実施について

以下の日程で、休日開館を行います。
2017年12月3・10・17・23・24日の各日曜日・祝日
開館時間……10:10～16:50
2018年1月7・8・14・21・28日の各日曜日・祝日
開館時間……9:10～16:50

■12月22日(金)、1月13日(土)の開館について

休講につき開館時間を短縮します。
開館時間……9:10～16:50

編集後記

図書館員というのは皆がそうとは言わないが、やはり本には特別な想いがあって、古い本なんて捨てちゃえばいい、などと得意顔で言う人がいると、顔ではあいまいな笑みを浮かべながら、心の中ではひそかに「この人とは友達になれないな」などと思うものである。もちろん、図書館で働いている人全員がそうだという事ではない。本学図書館では一定の条件に当てはまらない限り、古くなったというだけで蔵書を廃棄する事はない。神奈川大学が横浜専門学校時代に購入した本も残っている。

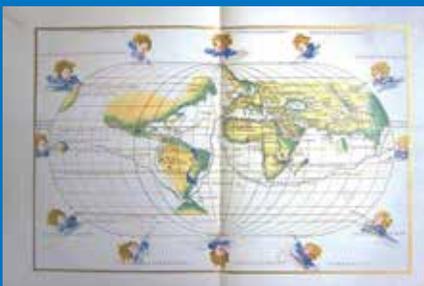
経済学部の教授であった山口茂先生から本学図書館が蔵書の寄贈を受けたのは1966年、その蔵書は「山口文庫」として大切に保管されてきた。このたび、その蔵書の中から19世紀の著名な経済学者ジャン＝バティスト・セーの書込みが見つかった。それらの本はいずれも1800年代初めに刊行された古い本である。200年近く経った本は今、人々に驚きと感動を与えた。

本というものはいつ、どういう形で脚光をあびることになるか予測ができない。一つだけ言える事は、今だけを考えていたら大きなものを失うかもしれない、という事だ。図書館員の仕事もそう。どうしてこの本を購入したのか、どう保存してきたのか、その本にどれだけ真摯に向き合い分類したのか。今の自分の仕事はこれから先ずっと、その本の中に残される。

50年後、100年後、そして自分達を知る人が誰もいなくなった時、あたためてその価値を認めてもらえるような仕事を、我々はしていかなければならないのかもしれない。図書館は、これまで長い間そうしてきたように、これからもずっと本を大切に保管していく。

(N. E.)

今号の表紙



バティスト・アグエーゼ「海図帳」16世紀(ファクシミリ版)

Atlante Nautico / Battista Agnese -- Roma : Istituto della Enciclopedia Italiana fondata da Giovanni Treccani, 2008

今号2頁「特集 古地図の魅力」に解説あり。大陸の間を通る黒い線は、史上初の世界一周航海を成し遂げたマゼラン艦隊が1519年から1522年にかけて周航したルートを表している。

請求記号：A550-48 (横浜 貴重書庫)